

いつまでも自立した生活を ～ 介護予防教室を開催 ～



生活機能評価の基本チェックリスト*を行ってみましたか？その結果、生活機能の低下の可能性があるとされた方、筋力の低下や気力の衰えなど、ご自分の心身が気になる方、今後もできる限り自立した生活が継続できるように取り組みませんか？市では皆さんの生活機能を向上し、「自己実現」「生きがい」を支えるため、次の介護予防教室を開催します。

※対象者は65歳以上の方（介護保険1号被保険者）で、要介護、要支援認定を受けていない方のうち、基本チェックの結果、「生活機能低下の可能性ある」と判定された方です。

筋力ステップアップ教室

個別の運動機能に応じ、ストレッチ、バランス運動などを行い、転倒予防、特に足の筋力アップを図ります。（月3回、3か月間）

軽度認知症予防教室

軽度認知症の進行速度を緩め、少しでも自立した生活が続けられるよう、効果のある活動に楽しみながら取り組んでいきます。（月4回：終了時期は個人により異なります。）

歯科や口腔機能で気になる方

口腔清掃や口腔リハビリについて、個別に相談をお受けします。

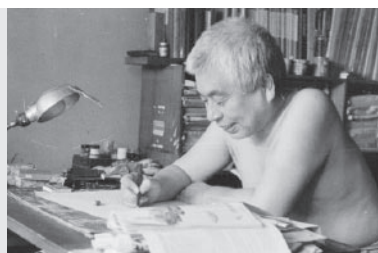
栄養面が気になる方

低栄養等について、個別に相談をお受けします。

※市では基本チェックリストを70歳代の方に個別送付させていただいています。質問に答え返送していただいた方には、9月初旬から順次結果を送付しますので、ご確認ください。

介護予防教室や相談に関することは下記までお問い合わせください。

問い合わせ 水口地域包括支援センター ☎ 65-1170 ☎ 63-4591 土山・甲賀地域包括支援センター ☎ 88-8136 ☎ 88-6557 甲南・信楽地域包括支援センター ☎ 86-8034 ☎ 86-5974



▲自宅アトリエにて作品制作中の小弥太。このいでたちで作業することが多かったという。【安井兵太氏所蔵写真】

ちなみに小弥太は民謡が好きで、上京後も、特に鈴鹿馬子唄の「あいの土山雨が降る」のフレーズをよく口ずさんでいたというエピソードがあり、ふるさとを思い出しつつ活躍した姿がしのべられます。

土山出身の乗物絵本作家 安井 小弥太

2010年は「国民読書年」と位置づけられ、市でも本に親しむさまざまな事業に取り組んでいます。これにちなみ、郷土ゆかりの作家として、今回は、戦前・戦後を通して乗物絵本界をリードした、土山出身の安井小弥太（1905～85）について、特に土山にちなんだ作品を紹介いたします。

「ダイカグラ」は、小弥太の青年期、昭和元（1926）年頃のもので、作品左上の電柱に「土山一〇三」と書かれ、周囲の家並みの様子などから、土山の旧東海道沿いにあったという生家近くでの正月風景を描いたものと思われま。なお、作品下部中央で、柵越しに中の様子をのぞいている子どもが、小弥太本人を描いたものであるということです。

甲賀市の
文化財

45

問い合わせ

土山歴史民俗資料館

☎ 66-1056 ☎ 66-1067

地元の土山には、大正末期から昭和初期にかけて、小弥太が日本画家として励んだ時代に描いた、「鶴と松」の絵が残されています。この作品は押入天袋四枚にわたって描かれており、現存する作品の中で最も古い部類に属する貴重なもので、甲賀市ゆかりの絵本作家の足跡として大切に守り継がれています。



▲原画「ダイカグラ」【安井兵太氏所蔵】

夏季企画展「こどものせかい」土山出身の乗物絵本作家・安井小弥太の作品を中心に「開催中」
期間 ● 9月19日（日）まで（月・火休館）
開館時間 ● 10時～17時
会場 ● 土山歴史民俗資料館